

10.1 エジプト



五輪予選に潜む、正体不明の魔物に苦しむ日本。まさかの敗戦で切符獲得に早くも暗雲

	25 - 14	
	25 - 10	
日本 2	23 - 25	3 エジプト
	23 - 25	
	13 - 15	

前日、格下のチームにフルセット勝負になったショックは、観客側には少なからずあったが、コートに入ってきた選手たちは、いつも通り。石川キャプテンは笑顔でスタメン一人ひとりをハグ、円陣を組んでの掛け声「リーヨ」も力強かった。

第1セットは、西田のバックアタック、ブロックで2連続得点し、最高の立ち上がり。ハイライトは、15-10と点差を広げた直後の場面。山内のサーブが、エジプトのエース、210cmのドーラを崩し、何とかつなげた苦し紛れのスパイクを西田がブロックタッチ。切り返してからの石川のバックアタックがドゴーンと音を立てて炸裂、リベロのレダの腕で高く跳ね上がると、会場中がどよめいた。勢いづく日本は25:15で第1セットを先取した。第2セット、日本はますます強さを見せつける。観客を驚かせたのが、終盤、フロント固めで関田と宮浦が交代した後だ。西田のビックサーブを拾ったボールが直接日本に返り、山本が受けて石川が西田にパイプのトスを上げたのだ！ セッター関田がいなくて、この攻撃の選択肢。「すごすぎる！」とバレーファンのワクワクが止まらない。最後は、終始、相手を苦しめた高橋藍のサーブから、小野寺のクイックが決まって25:10。龍神 NIPPON 本来のバレーに安心感が広がった。

しかし、この後の展開を誰が予想したであろうか。第3セット、エジプトは、選手交代で流れを変え、出たとこ勝負で粘り強さを見せる。点を取り合いながらもエジプトに先行されると、前日の「魔の第3セット」を思い出さざるを得なかった。何度もあった長いラリー。山本智大とユダ、両リベロのフィンプレー、高橋藍の片手でのフライングレシーブなど、「ボールは落とさない！」という両チームの執念が見るものを興奮させたが、ラリーを制したのはエジプトだった。この時点で、前日の悪夢がよぎる。23-25でこのセットを落とし、第4セットも同じ展開、同じ2点差で失セット。最終セットは1点の攻防を取り切れず、13-15で痛い1敗を喫した。第4セット途中から山本龍に代えられた関田は、涙を浮かべて記者の質問に沈黙。この敗戦が、何につながるのか。少しでも明日の糧になることを願いつつ、観客たちは体育館を後にした。



●スターティングメンバー



日本	2-3	エジプト
109	得点	89
66	アタック決定本数	57
8	ブロックポイント	8
8	サービスエース	1
27	相手のミスによる得点	23

●スタメン6人の平均身長 日本 191.0cm エジプト 199.8cm